

5. がん対策情報センター主催研修への評価

国立がんセンターがん対策情報センターでは、看護師を対象とした研修を実施している。これらの研修への院内参加者の有無、満足度、有用度、実施継続の希望の有無について集計した(表9-1～3)。各研修への院内参加者について、「無回答」の施設も多かったが、「あり」と回答した施設の満足度、有用度をみると、各研修ともに、85%以上の施設が「とても満足」「やや満足」、また、「とても有用」「やや有用」と回答し、継続希望については、約70～90%の施設が「継続を希望する」と回答した(図9-1～3)。

表9-1.「がん看護研修企画・指導者研修」への参加と満足度・有用度・継続希望

院内参加者の有無	満足度						有用度						継続の希望			
	とても満足	やや満足	あまり満足しない	不満足	無回答	合計	とても有用	やや有用	あまり有用でない	有用でない	無回答	合計	希望する	希望しない	無回答	合計
なし	0	0	0	0	78	78	0	0	0	0	78	78	3	2	73	78
あり	31	47	3	1	6	88	30	44	7	2	5	88	63	16	9	88
無回答	0	0	0	0	33	33	0	0	0	0	33	33	0	0	33	33
合計	31	47	3	1	117	199	30	44	7	2	116	199	66	18	115	199

表9-2.「がん看護専門分野(指導者)講義研修」への参加と満足度・有用度・継続希望

院内参加者の有無	満足度					有用度					継続の希望			
	とても満足	やや満足	あまり満足しない	無回答	合計	とても有用	やや有用	あまり有用でない	無回答	合計	希望する	希望しない	無回答	合計
なし	0	0	0	84	84	1	0	0	83	84	8	0	76	84
あり	42	19	3	2	66	40	19	5	2	66	59	4	3	66
無回答	0	0	0	49	49	0	0	0	49	49	0	0	49	49
合計	42	19	3	135	199	41	19	5	134	199	67	4	128	199

表9-3.「がん看護専門分野(指導者)実地研修」への参加と満足度・有用度・継続希望

院内参加者の有無	満足度					有用度					継続の希望			
	とても満足	やや満足	あまり満足しない	無回答	合計	とても有用	やや有用	あまり有用でない	無回答	合計	希望する	希望しない	無回答	合計
なし	0	0	0	104	104	0	0	0	104	104	10	2	92	104
あり	18	10	2	1	31	18	10	2	1	31	25	3	3	31
無回答	0	0	0	64	64	0	0	0	64	64	0	0	64	64
合計	18	10	2	169	199	18	10	2	169	199	35	5	159	199

図 9-1. 「がん看護研修企画・指導者研修」への院内参加者「あり」の場合の満足度・有用度・継続希望 (n=88)

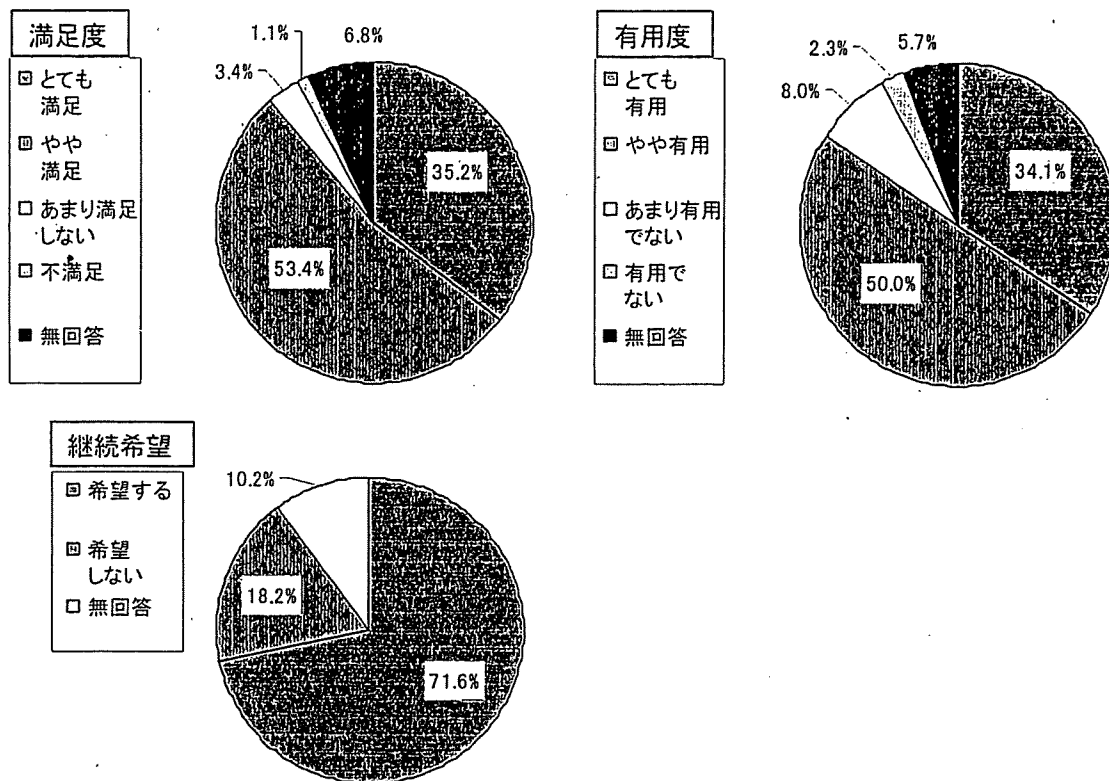


図 9-2. 「がん看護専門分野(指導者)講義研修」への院内参加者「あり」の場合の満足度・有用度・継続希望 (n=66)

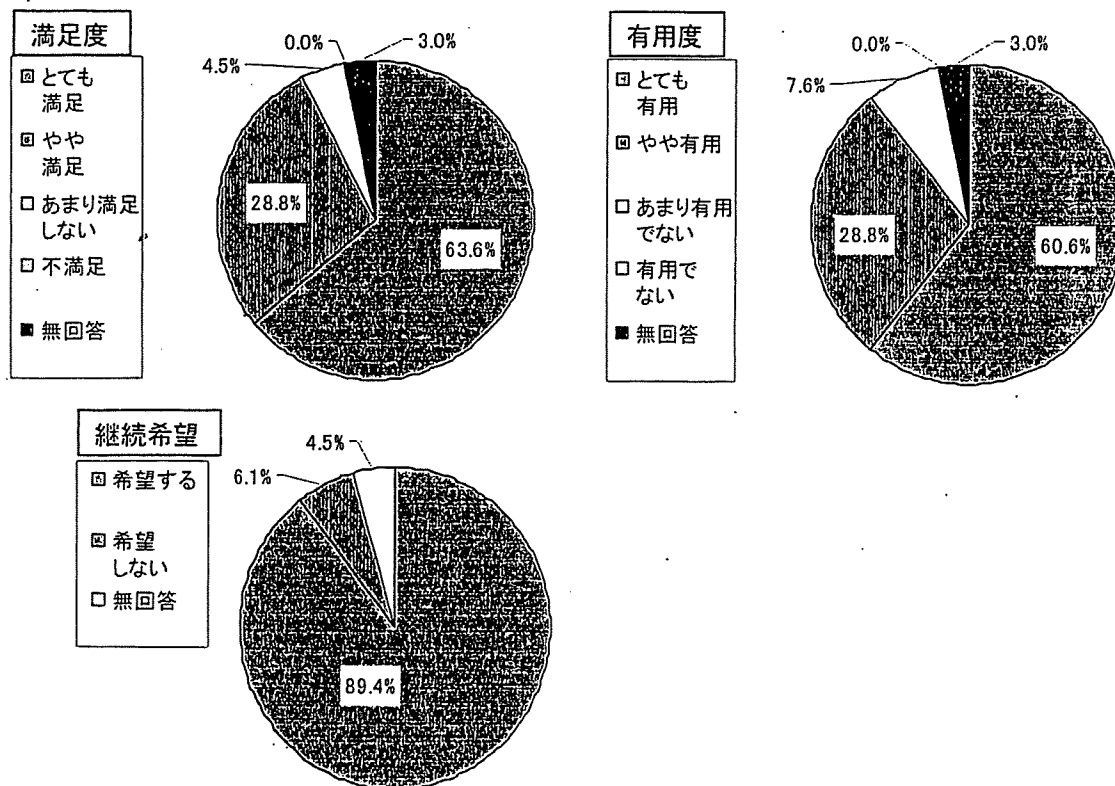
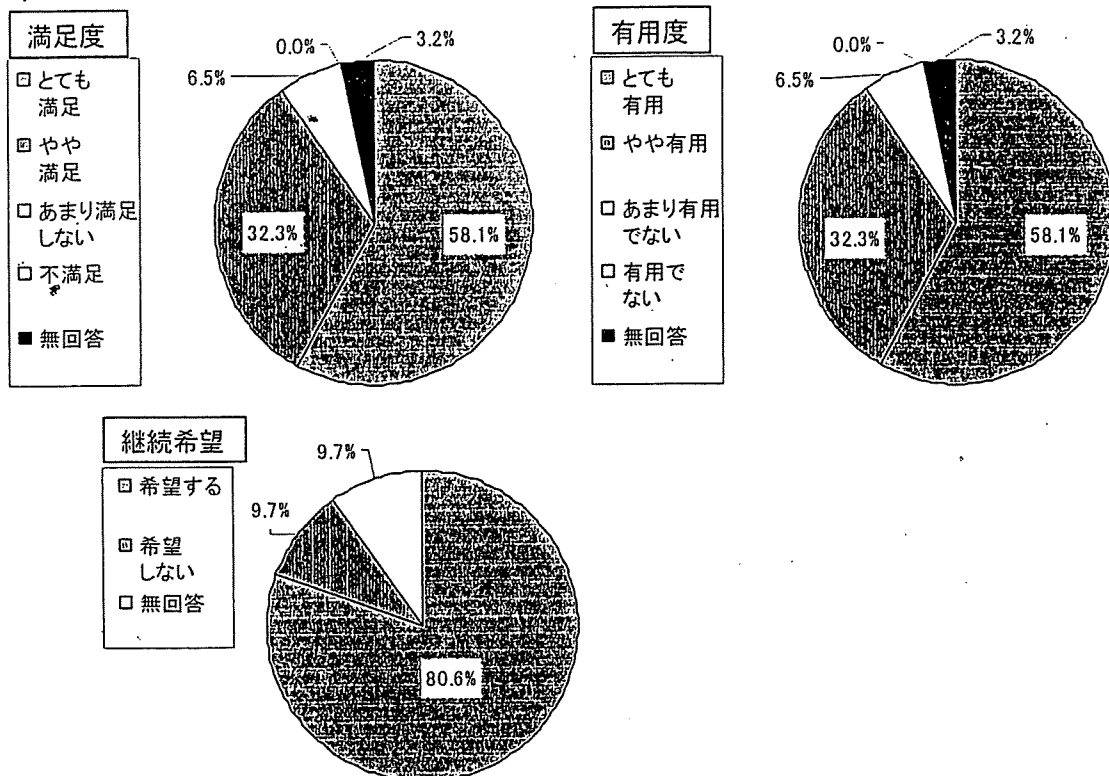


図 9-3. 「がん看護専門分野(指導者)実地研修」への院内参加者「あり」の場合の満足度・有用度・継続希望(n=31)



V. 考察

1. がん診療連携拠点病院のがん看護関連研修の実施の現状と課題について

今回の分析対象施設は、調査時点の全がん診療連携拠点病院の 53.1%となったが、その内訳比率を全 375 施設のものと比較すると、ほぼ同様であった。本調査結果から、全がん診療連携拠点病院の傾向をある程度予測することは可能と考える。

がん診療連携拠点病院では、その役割として、施設内および地域内での研修会などの実施により、がん医療に携わる人材育成の努力をしていることがわかった。その一方で、研修会などの人材育成の具体的な計画をもたない施設も約 20%あった。このような状況は、拠点病院の種別や地域ブロックに関わらず生じており、特に連携・支援を必要としている施設を特定して取り組むことも可能かもしれない。そのような施設が具体的な計画を立案し、実施・運営面でも都道府県内で連携・支援しあう体制構築が急務である。

また、拠点病院へのアンケート調査結果からは、学習ニーズの高い項目としては「緩和ケア・症状マネジメント」に関するもの、学習機会の少ない項目としては「放射線療法看護」に関するものが必要と考えられ、「がん化学療法看護」の学習用コンテンツ作成を基盤として作成することが期待される。

2. がん領域の専門看護師・認定看護師の役割発揮について

がん領域の専門看護師・認定看護師が所属しているか否かによって、院内教育にがん看護に関する研修が含まれているかどうかの違いが見受けられた。院外対象者向けの研修に

関しては、医師の「緩和ケア指導者研修」と同時開催で研修会の機会を設けている施設も多く、がん領域の専門看護師・認定看護師の有無と院外対象者向け研修の実施状況に係性は見いだされなかった。しかし、これらの人材を有効活用することによって、がん医療に携わる医療従事者の人材育成が活性化する可能性は高いと考えられる。院内教育においても、院外対象者向け研修においても、がん領域の専門看護師・認定看護師が有効活用され、がん看護における人材育成が推進されることが期待される。

施設所属の専門看護師・認定看護師は、施設内での活躍の場の調整は、管理者の計画性や配慮により、比較的行きやすいと考えるが、施設外での活躍の場を設けることは難しい状況があると推測される。すなわち、施設を越えた地域内でのコンサルテーション活動などが展開されるには、専門看護師・認定看護師が施設外でも活動できる体制や勤務上の工夫も必要と考える。特に、平成22年2月現在でがん看護専門看護師数は193名であり、がん診療連携拠点病院数に比較して少ない。この人材を施設内のみならず、日本全国で活用するためには、所属施設側の理解や配慮と共に、がん看護専門看護師の対外的活動の評価を明示することも必要と考える。

3. がん診療連携拠点病院のがん看護関連研修の実施を支援する体制について

がん診療連携拠点病院のがん看護関連研修の実施において、望ましいと考える連携体制、困っていることや連携・支援が必要なことに関する結果では、国立がんセンターなど中核施設としての情報発信や体制整備の役割を充実させることと、各都道府県がん診療連携拠点病院を中心として地域内でも情報共有や互いに連携・協力しあうことが促進されることが課題と考えられた。がん対策基本法に基づいた明確な目標をがん診療連携拠点病院間で共有し、人材育成のビジョンをもつこと、それに基づいた各施設の役割が明確になることが必要である。

都道府県および地域がん診療連携拠点病院のがん看護・医療に関する研修・人材育成においては、その目標となる具体的項目・内容、数値目標などが明示されること、そのための教材開発と情報提供、および企画・指導できる人材の育成、専門看護師・認定看護師の有効活用のための連携・支援のコーディネーション機能を有する組織などが求められる。今後は、これらを具体化していくことが課題である。

VI. 結論

1. がん診療連携拠点病院はその役割である研修・人材育成に試行錯誤し努力している。
2. がん医療の均てん化を目指したがん診療連携拠点病院の研修・人材育成機能の充実のためには、人材育成の指針と目標の明確な提示、教材開発と提供、指導者育成機会の提供、研修企画・運営支援が必要である。
3. 地域内での連携体制の活性化を担う都道府県がん診療連携拠点病院の機能強化が必要である。
4. がん領域の専門看護師・認定看護師が、所属施設内だけでなく、所属施設外でも役割発揮する機会が保証される仕組みが必要である。

資料 1 (説明・協力依頼文書・質問紙)

がん診療連携拠点病院
看護部長様 各位

がん看護関連研修・人材育成支援に関する調査へのご協力のお願い

拝啓

師走の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。突然のご連絡で大変失礼いたします。私は、国立がんセンターがん対策情報センターでがん看護の研修の企画・運営を担当する研修専門官の森文子（もりあやこ）と申します。

このたび、「平成21年度厚生労働科学研究費補助金（がん臨床）「がん医療の均てん化に資するがん医療に携わる専門的知識および技能を有する医療従事者の育成に関する研究」におきまして、がん診療連携拠点病院が実施しているがん看護関連の研修の実施状況および、人材育成事業に関する連携・支援体制に関する要望について調査を行うこととなりました。

この研究では、わが国のがん対策において求められるがん看護水準の均てん化を目指した人材育成プログラムを開発し、これを普及するための教育・研修実施施設を支援するシステムを構築することにより、一定水準のがん看護教育・研修ががん診療連携拠点病院を中心に展開され、がん医療の均てん化に貢献することを目指しております。今回の調査は、その体制構築の基礎資料を得るために計画いたしました。

本調査は、がん診療連携拠点病院の看護部門で、看護職者を主な対象とした研修・人材育成の企画・運営等を統括されている方に回答をお願いいたします。調査は別添の調査票を用いて行います。郵送させていただいた調査票は、ご回答後、同封の返信用封筒でご返送いただいて回収いたします。

調査票への回答は自由意思に基づき、回答しないこと、また、途中で回答を撤回することによる不利益はございません。回答は無記名で記載していただきますので、個人や施設が特定されることはございません。調査票の回答と返送をもって、研究協力への同意の確認とさせていただきます。研究協力への意思がなく、ご回答いただけなかった場合には、調査票の返送は必要ありません。

調査の結果は、研究報告書や学会発表等を通してご報告させていただきますが、ご質問やご要望にはその都度対応させていただきます。

ご多用中のところ、大変恐縮ではございますが、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力をいただけますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

敬具

*本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

分担研究者 森 文子（もりあやこ）

国立がんセンターがん対策情報センター/中央病院

研修専門官（看護）/がん看護専門看護師

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

電話：03-3542-2511（内線2289・3532）

FAX：03-3542-2545 E-mail：aymori@ncc.go.jp

がん看護関連研修・人材育成支援に関する調査票

(ご協力いただける場合、平成 22 年 1 月 12 日までにご返送ください)

I. 貴施設について、ご回答ください。

1. 拠点病院の別について該当するもの(番号)に○をつけてください。

- 1) 都道府県がん診療連携拠点病院 2) 地域がん診療連携拠点病院

2. 施設所在地の地域ブロックについて該当するもの(番号)に○をつけて下さい。

- 1) 北海道・東北 2) 関東 3) 甲信越 4) 北陸
5) 東海 6) 近畿 7) 中国 8) 四国 9) 九州・沖縄

3. 病院の規模について最新の数字でお答えください。

- 1) 病床数 _____ 床 (_____ 年 _____ 月現在)
2) 平均在院患者数 _____ 人 (_____ 年 _____ 月現在)

4. 調査時の看護職員についてお答えください。(看護職員とは、看護師・准看護師とします。)

- 1) 看護職員数 看護師： _____ 名 准看護師： _____ 名
2) 看護職員の平均在職期間 _____ 年 _____ ヶ月
3) 看護職員の臨床経験年数構成 平均経験年数 _____ 年

*わかる範囲の概算でご回答ください(可能な範囲で結構です)。

	1~2年目	3~5年目	5~10年目	10年目以上
人数	人	人	人	人

4) 日本看護協会から資格認定を受けている看護師(調査時)

(1) 専門看護師

専門分野	ナレッジ	人数	職位	院内配置 部署	主な役割

(2) 認定看護師

専門分野	人数	職位	院内配置 部署	主な役割

4) これまでがん対策情報センターが看護職向けに実施してきたがん看護関連の研修に対する評価をお聞かせください。実施してきた主な研修は以下のとおりです。

- | |
|--|
| (1) がん看護研修企画・指導者研修（平成 19 年度～） |
| (2) がん看護専門分野（指導者）講義研修（平成 20 年度～）
「がん化学療法看護コース」「緩和ケアコース」「がん放射線療法看護コース」 |
| (3) がん看護専門分野（指導者）実地研修（平成 20 年度～）
「がん化学療法看護コース」「造血幹細胞移植看護コース」
「緩和ケアコース」「がん放射線療法看護コース」 |
| (4) がん診療に従事する看護師研修（講義・実地）＊平成 19 年度のみ
「がん化学療法看護コース」（講義・実地）「造血幹細胞移植看護コース」（実地のみ） |

※ 以下の表に上記の研修についてお答えください。（人数は可能な範囲の記載で構いません）

研修	院内参加者の有無	満足度	有用度	継続の希望
(1)	① 無 ② 有 (名)	① とても満足 ② やや満足 ③ あまり満足しない ④ 不満足	① とても有用 ② やや有用 ③ あまり有用でない ④ 有用でない	① 希望する ② 希望しない
(2)	① 無 ② 有 (名)	① とても満足 ② やや満足 ③ あまり満足しない ④ 不満足	① とても有用 ② やや有用 ③ あまり有用でない ④ 有用でない	① 希望する ② 希望しない
(3)	① 無 ② 有 (名)	① とても満足 ② やや満足 ③ あまり満足しない ④ 不満足	① とても有用 ② やや有用 ③ あまり有用でない ④ 有用でない	① 希望する ② 希望しない
(4)	① 無 ② 有 (名)	① とても満足 ② やや満足 ③ あまり満足しない ④ 不満足	① とても有用 ② やや有用 ③ あまり有用でない ④ 有用でない	① 希望する ② 希望しない

ご協力、ありがとうございました。

平成 22 年 1 月 12 日（火）までにご返送ください。

別 添 資 料 6

第三回医学生・研修医のための
腫瘍内科セミナー

対象: 医学部学生、初期研修医(卒後1-2年目)
日時: 2007年8月4日(土)AM10:00-17:00
会場: 国際研究交流会館
(国立がんセンター築地キャンパス内)
東京都中央区築地5-1-1

参加料: 無料(交通費 自己負担)
定員: 120名(定員になり次第〆切)
テーマ:
「日本の腫瘍内科医教育制度に対する展望」
「がん診療における放射線治療医、緩和治療医の役割」
「腫瘍内科医に望むもの～患者の視点から～」
「Tumor Board Case Conference」
「がん薬物療法専門医制度について」他、グループワークなど

主催:
国立がんセンター

厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「がん医療の均てん化に資するがん医療に携わる専門的な知識および技能を有する医療従事者の育成に関する研究」班

腫瘍内科セミナー

アンケート結果

回答者 65 名

		Excellent	Very good	Good	Fair	Poor	未回答	都道府県	学生	研修
		5	4	3	2	1				
1. 今回のセミナー全体を評価して下さい。	件	26	29	4			6	東京都	6	12
	%	40	44.6	6.2			9.2	北海道	2	1
2. 講演:「新薬開発と腫瘍内科医の役割」は有意義でしたか?	件	18	26	14	2		5	青森県	4	
	%	27.7	40	21.5	3.1		7.7	岩手県		1
3. 講演:「国立がんセンターでの腫瘍内科研修制度について」は有意義でしたか?	件	26	27	7	1		4	宮城県	1	
	%	40	41.5	10.8	1.5		6.2	福島県		1
4. 講演:「がん診療における放射線治療医の役割」は有意義でしたか?	件	15	27	20			3	茨城県		2
	%	23.1	41.5	30.8			4.6	栃木県		2
5. 講演:「がん診療における緩和治療医の役割」は有意義でしたか?	件	21	28	13			3	群馬県	1	
	%	32.3	43.1	20			4.6	埼玉県		1
6. 講演:「小児がんに対する小児腫瘍医の役割」は有意義でしたか?	件	19	32	11			3	千葉県		1
	%	29.2	49.2	16.9			4.6	神奈川県	2	3
7. 講演:「日本の腫瘍内科医教育制度に対する展望」は有意義でしたか?	件	29	27	7	1		1	新潟県	1	
	%	44.6	41.5	10.8	1.5		1.5	富山県	1	
8. 講演:「一般病院での腫瘍内科の取り組み」は有意義でしたか?	件	19	37	8			1	山梨県	4	
	%	29.2	56.9	12.3			1.5	長野県		1
9. 講演:「腫瘍内科医に望むもの～患者の視点から～」は有意義でしたか?	件	51	12	1			1	静岡県		2
	%	78.5	18.5	1.5			1.5	愛知県	1	2
10. 講演:「Tumor Board Case Conference」は有意義でしたか?	件	41	18	6				三重県	1	
	%	63.1	27.7	9.2				滋賀県		2
11. グループワークは有意義でしたか?	件	33	22	9		1		京都府		1
	%	50.8	33.8	13.8		1.5		大阪府		1
								兵庫県		2
								鳥取県		1
								島根県	1	
								岡山県		1
								広島県		1
								香川県	2	
								愛媛県	1	
								佐賀県	1	
								熊本県	1	
								大分県		1
								辞退	2	5
								計	32	44

* 全体の評価は、「大変良い」以上が85%であり有意義であったとの評価であった。

悪かった点

- ・緩和ケアの時間が少なかった。
- ・グループワークの時間を拡大して欲しい。外国の講師を招聘するのも一案と思う。
- ・質疑応答の時間が少なかった。
- ・グループワークの時間を削って講義に当てて欲しい。
- ・土曜日の午前開催を見直して欲しい。臨床に従事しているので、講義が聴講できなかった。

良かった点

- ・様々な大学の学生、研修医の意見が聞けたのは有意義であった。
- ・患者の視点からと題した上野さんの講演は感動的だった。
- ・皆さんの意識が高く、とても刺激となった。ぜひ次回も参加したい。
- ・今後の腫瘍内科の動向が解かり、とても参考となった。
- ・ランチを一緒に摂れて、質問がし易い環境を作って頂けた。

その他意見

- ・レジデントの具体的な話が聞ければ良かった。
- ・司会、進行がスムーズで良かった。
- ・冷房がちょうど良かった。
- ・カンファレンスが良かった。今後も実施して欲しい。
- ・講演の数が多いと感じた。
- ・精神腫瘍学とかの話も聞きたかった。
- ・今後も継続して開催して欲しい。

第四回医学生・研修医のための腫瘍内科セミナープログラム

1. 日程 2008年8月2日(土) AM10:00-17:00

主催：国立がんセンター、厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「がん医療の均てん化に資するがん医療に携わる専門的な知識および技能を有する医療従事者の育成に関する研究」班

2. 場所：国際交流会館3階(〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 国立がんセンター敷地内)

3. スケジュール

総合司会	国立がんセンター中央病院 内科	勝俣範之
10:00-10:10	開会のあいさつ	国立がんセンター中央病院院長 土屋了介
10:10-10:40	「がん診療における腫瘍内科医の役割」	国立がんセンター中央病院 内科 藤原康弘
10:40-11:00	「がん対策基本法と腫瘍内科医の育成」	国立がんセンターがん情報センター 丸山大
11:00-11:20	「一般病院における腫瘍内科医の育成」	亀田総合病院腫瘍内科 大山優
11:20-11:40	「がん診療における緩和治療医の役割～在宅ホスピス医より」	ホームケアクリニック川越 川越 厚
11:40-12:00	「がん研究 ～基礎から臨床へ」	国立がんセンター研究所副所長 中釜 斉
12:00-13:00	昼休み(弁当)(管理棟 第二～第七会議室)	
13:00-13:30	「国立がんセンターのレジデントになって～腫瘍内科への期待・不安」	国立がんセンター中央病院内科レジデント 小谷凡子
13:30-14:10	「腫瘍内科医に望むもの～患者の視点から～」	読売新聞記者 本田麻由美
14:10-15:00	「Tumor Board Case Conference (食道がん患者を一例に)」	
	症例提示	国立がんセンター中央病院 チーフレジデント 岡崎俊介
	外科医	国立がんセンター中央病院 外科 井垣弘康
	腫瘍内科医	京都大学医学部 外来化学療法部 石黒洋 県立広島病院臨床腫瘍科 篠崎勝則
	放射線治療医	国立がんセンター中央病院 放射線治療部 馬屋原博
	緩和治療医	ホームケアクリニック川越 川越 厚
15:00-15:20	休憩・グループワーク会場へ移動	
15:20-16:20	グループワーク(管理棟第二～第七会議室)	
	8班に分かれてグループワークを行います。基本的にはフリーディスカッションですが、次のようなテーマを想定しています。がん診療における腫瘍内科医の役割、がん薬物療法専門医制度に期待するもの、腫瘍内科教育に期待するもの、国立がんセンターに期待するもの、腫瘍内科医の将来性、日本の方向性についてなど。	
16:20-16:50	総合討論・質問	国立がんセンター中央病院 内科 勝俣範之
16:50-17:00	閉会のあいさつ	国立がんセンター中央病院レジデント専門委員会副委員長 飛内賢正

第5回医学生・研修医のための 腫瘍内科セミナー

対象： 医学部学生、初期研修医(卒後1-2年目)
日時： 2009年8月1日(土)AM10:00-17:00
会場： 国際研究交流会館
(国立がんセンター築地キャンパス内)
東京都中央区築地5-1-1

参加料：無料(交通費 自己負担)

定員：120名(定員になり次第〆切)

テーマ：

「日本の腫瘍内科医教育制度に対する展望」

「がん診療における放射線治療医、緩和治療医の役割」

「腫瘍内科医に望むもの～患者の視点から～」

「Tumor Board Case Conference」

「がん薬物療法専門医制度について」他、グループワークなど

主催：

国立がんセンター

厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「がん医療の均てん化に資するがん医療に携わる専門的な知識および技能を有する医療従事者の育成に関する研究」班

資料 1

第五回医学生・研修医のための腫瘍内科セミナープログラム

1. 日程 2009年8月1日(土) AM10:00-17:00

主催：国立がんセンター、厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「がん医療の均てん化に資するがん医療に携わる専門的な知識および技能を有する医療従事者の育成に関する研究」班

2. 場所：国際交流会館3階（〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 国立がんセンター敷地内）

3. スケジュール

第1部

総合司会		国立がんセンター中央病院 内科	近藤俊輔
10:00-10:10	開会のあいさつ	国立がんセンター	総長 廣橋説雄
10:10-10:40	「がん診療における腫瘍内科医の役割」	国立がんセンター中央病院 内科	田村研治
10:40-11:10	「がん医療における基礎研究の役割」	国立がんセンター研究所	副所長 中釜 斉
11:10-11:40	「大学病院・一般病院における腫瘍内科医の役割」	神戸大学病院腫瘍内科	藤原 豊
		横浜労災病院腫瘍内科	赤塚壮太郎
11:40-12:00	「腫瘍内科医が行う緩和ケア ～緩和ケア医が腫瘍内科医になって～」	聖隷浜松病院 緩和ケア科	部長 金 容壺
12:00-13:00	昼休み（弁当）（管理棟 第一～第四会議室）		
13:00-13:15	「がんセンターでの内科レジデントの醍醐味」	国立がんセンター中央病院	39期内科レジデント 関 好孝
13:20-13:40	「患者教育：隣がん教室の紹介」	国立がんセンター中央病院	相談支援センター
13:40-14:10	「腫瘍内科医に望むもの～患者の視点から～」		植村めぐみ

第2部

総合司会		国立がんセンター中央病院 内科	加藤 健
14:10-15:00	「Tumor Board Case Conference」		
	症例提示	国立がんセンター中央病院 内科	堀之内秀仁
	外科	国立がんセンター中央病院 外科	河内利賢
	腫瘍内科医	神戸大学病院 腫瘍内科	藤原 豊
		横浜労災病院 腫瘍内科	赤塚壮太郎
	放射線治療医	国立がんセンター中央病院	放射線治療 師田まどか
	緩和治療医	聖隷浜松病院 緩和ケア科	部長 金 容壺
15:00-15:20	休憩・グループワーク会場へ移動		
15:20-16:20	グループワーク（管理棟第一～第四会議室、国際交流会館2階第二会議室）		
	9班に分かれてグループワークを行います。基本的にはフリーディスカッションですが、次のようなテーマを想定しています。がん診療における腫瘍内科医の役割、がん薬物療法専門医制度に期待するもの、腫瘍内科教育に期待するもの、国立がんセンターに期待するもの、腫瘍内科医の将来性、日本の方向性についてなど。		
16:20-16:50	総合討論・質問	国立がんセンター中央病院 内科	加藤 健
16:50-17:00	閉会のあいさ	国立がんセンター中央病院レジデント専門委員会委員長	飛内賢正

【第 5 回 医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー アンケート集計】

	5 Excellent	4 Very good	3 Good	2 Fair	1 Poor	返答人数
1	19	19	1	0	0	39
2	24	14	2	0	0	40
3	15	13	11	0	0	39
4	21	14	5	0	0	40
5	18	17	5	1	0	41
6	20	18	3	0	0	41
7	8	14	16	3	0	41
8	24	12	4	2	0	42
9	22	17	4	0	0	43
10	25	15	0	0	0	40
11	ポスター	E-mail/ホームページ	その他			
	20	18	研修先の医師より紹介	友人の紹介	先輩の紹介	医局からのお知らせ
12	ポスター	E-mail/ホームページ	医学界新聞など	その他		
	21	29	4	0		
13	今のままでよい	時期を変更してほしい				
	39	年度のもう少し早期(5~6月)→進路相談できる	学生に重点を置くならば、8月下旬が良いと思う	休日であれば今のままでよい		

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
佐々木陽彦、石黒博、他	がん治療に必要な支持療法	大山 優、他	がん治療エッセンシャルガイド	南山堂	東京	2009	63-105
石黒 洋、他	抗腫瘍化学療法	京都大学大学院医学研究科外科学講座	外科研究マニュアル	南江堂	東京	2009	223-243
石黒 洋、他	Oncologic Emergency manual	石黒 洋、西村貴文、他	Oncologic Emergency manual		京都	2007	9-85

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大江裕一郎	NPO法人日本臨床学会による教育	日本臨床	67 (増刊1)	550-554	2009
有賀悦子	がん緩和医療 がん疼痛対策	日本内科学会雑誌	98(6)	165-173	2009
有賀悦子	がん治療における患者への対応 集学的治療と終末期ケア	日本癌治療学会誌	44(3)	1345-1350	2009
下山恵美、他	ペインクリニックに関わる「がん対策基本法」	ペインクリニック	30(1)	83-91	2009
丸山 大	人材の育成	腫瘍内科	2(1)	36-41	2008
村越功治、他	がん専門薬剤師研究施設における受け入れ体制	THPA	56(5)	366-372	2007
Isobe K, Shikama, N, et al.	Initial experience with the quality assurance program of radiation therapy on behalf of Japan Radiation Oncology Group(JAROG)	Jpan J Clin Oncol.	37(2)	135-139	2007
木下真由美、篠崎勝則、他	県立広島病院における外来がん化学療法への取り組み—看護師の立場から、	外来看護最前線	12(3)	69-77	2007